

市場経済における金融の働き

監修・講師 栗原 久

東洋大学 文学部 教授

学習のねらい

「なぜ金融が必要なのか」「日本銀行はどのような銀行か」「キャッシュレス決済のメリット・デメリットは何か」などの問いについて探究するのが、今回のねらいです。金融とは、資金を融通することです。私からあなたへ直接融通することもあれば、金融機関が仲介することもあります。経済の発展・成長と金融はどのように関わっているのか、追究してみましょう。

ポイント 1 金融のしくみと働き

日常の買い物で使う紙幣や硬貨は、**現金通貨**といわれています。一方、銀行に預金があれば携帯電話料金などを支払えるように、預金は通貨の役割を果たしています（**預金通貨**）。最近では、**電子マネー**なども決済手段として広範に使われるようになりました。

資金の余裕のある人から、手元に資金はないけれど今、必要としている人に、資金を融通するのが**金融**です。**直接金融**は、企業が株式や債券を発行して投資家から直接資金を調達する方法です。これに対し、私たちの預金が銀行を通して企業などに貸し付けられるのが、**間接金融**です。近年話題になっている**クラウドファンディング**は、インターネットを通して不特定多数の人から少額の資金を調達する直接金融の一種です。

資金の貸借や株式などの証券の売買が行われるのが、**金融市場**です。金融市場には、1年未満の短期資金を対象とする短期金融市場と、1年以上の長期資金を対象とする長期金融市場があります。金融市場では、資金に対する需給関係から**金利**が決まります。企業からの資金需要が増えれば、金利は上がります。反対に、資金需要が減れば、金利は下がります。

一般に、取引期間が1年以上の**長期金利**は、1年未満の**短期金利**よりも高くなります。

探究活動のヒント

みなさんも「新しく起業した人は、どのように資金調達をしたのか？」をテーマに探究してみてください。新しく企業を起こすには、資金が必要です。では、どのように開業資金を確保するのか。起業しようとする人にとって、これは深刻な問題です。銀行から借り入れたいと考えても、担保となる土地などを持ってい

なければ難しいでしょう。個人投資家からの出資を期待しても、過去にそれなりの経営実績がなければ困難でしょう。では、みなさんならどうしますか、現実的な方法を探究してみましょう。

ポイント 2 中央銀行の役割と金融環境の変化

各国には、国全体を金融面から支える**中央銀行**があります。日本の中央銀行は、**日本銀行（日銀）**です。日銀には、「**発券銀行**」（紙幣を独占的に発券する）、「**銀行の銀行**」（金融機関から預金を受け入れ、貸し出しを行う）、「**政府の銀行**」（政府の資金や国債に関する事務を行う）という役割があります。また、金融危機などの時には、「**最後の貸し手**」として金融機関に対して資金提供をします。

中央銀行の主な役割は、物価と景気の安定をはかることです。このために、金融市場を通して通貨量を調整する**金融政策**を実施しています。日銀の金融政策の主な手段は、**公開市場操作（オペレーション）**です。たとえば、景気が悪化したとき、日銀は金融市場から国債などを買い上げ（買いオペ）、市中の通貨量を増やします。金融政策の運営に関する事項を審議・決定しているのが、日銀の**金融政策決定会合**です。

日本ではかつて、金融機関の倒産を防ぐために、政府がさまざまな規制を行っていました。しかし、1990年代になると金融の自由化・国際化が進展し、1996年には、**日本版金融ビッグバン**とよばれる構想のもと、金融制度改革が実施されました。これにともなって**金融商品の多様化**が進展しましたが、消費者にはリスクに対する**自己責任**が求められるようになりました。また、金融市場が活性化する反面、不安定化することが懸念されるようになりました。

探究活動のヒント

みなさんも「金融の自由化で私たちの暮らしはどう変わったか？」をテーマに探究してみましょう。みなさんの中には、コンビニのATMで銀行預金を引き出したことのある人がいると思います。ATMがコンビニに設置されるようになったのは、1990年代末からです。これによって、365日24時間、遠くの銀行に行かなくても、預金の引き出しなどができるようになりました。これは金融の自由化（規制緩和）の事例のひとつですが、そのほかにはどのような自由化がなされたのか、それが私たちの暮らしにどう影響したのか、探究してみましょう。

ポイント 3 進むキャッシュレス社会

電子マネーなどを使って買い物をすることが増えてきました。現金を使わずに、支払い・

決済を行うことを**キャッシュレス**といいます。キャッシュレス決済が広範に普及した社会が、キャッシュレス社会です。

世界では、キャッシュレス化が急速に進展しています。韓国では、すでにキャッシュレス決済の比率が9割を超えています。日本でもキャッシュレス化が急速に進んでいますが、3割程度（2021年）の普及率で、「キャッシュレス後進国」といわれています。

キャッシュレス決済には、現金を持ち歩く必要がない、ポイント制度を利用できる、利用の履歴を確認できる、などのメリットがあります。一方、利用できる店舗が限られている、お金を使った実感が持ちにくい、災害時に使えなくなる可能性がある、などのデメリットが指摘されています。

「**持続可能な開発目標(SDGs)**」のスローガンは、「誰ひとり取り残さない」です。スマートフォンなどを使わない（使えない）人が、キャッシュレス決済の普及に取り残されないようにすることは、キャッシュレス社会の課題です。

探究活動のヒント

「30年後には、決済の方法はどうなっているか？」をテーマに探究してみましよう。現在、日本銀行が発行しているのは紙の銀行券（紙幣）ですが、これをデジタル化してはどうかという議論があります。円などの法定通貨をデジタル化したお金を、「中央銀行デジタル通貨（CBDC）」といいます。さて、今後、どのような決済手段が登場してくるのでしょうか。誰にとっても使いやすい、決済の費用が安い、個人情報を守られるなどの条件を満たす通貨には、どのようなものが考えられるか。自由に話し合い、探究してみましょう。